

伊江島で採集された日本初記録のフカミヤッコ（新称） （スズキ目キンチャクダイ科）

First Record of a Pomacanthid Fish, *Genicanthus bellus* Randall, 1975 from Japan

瀬能 宏¹⁾・湯野川 恭²⁾

Hiroshi SENOU¹⁾ & Kyo YUNOKAWA²⁾

Abstract. A female of *Genicanthus bellus* Randall, 1975 (Perciformes: Pomacanthidae) was collected at a depth of 50 m on a reef in the north-west of Ie-jima Island, the Ryukyu Islands. This specimen agreed well with the original description in coloration and counts except transvers scale rows and circumpeduncular scales. On the other hand, most of the morphometrics were different from the description. They may originate in that the type materials are larger than our specimen in size. The differences in fin-ray counts between the Cocos-Keeling Islands of the East Indian Ocean and Tahiti of the Central Pacific (15 dorsal and 16 pectoral rays in the former vs. 16 and 17 in the latter), which stated in the original description are not geographical variation, because Ie-jima's specimen has 15 dorsal and 17 pectoral rays respectively. Its occurrence in Ie-jima Island represents the first record from Japan and the northernmost record of the species. Additionally, there are a few records based on underwater photographs from Kume-jima Island and Amuro-jima Island. It is thought that the distribution of this species in the Ryukyu Islands is a result of chance and unsuccessful dispersal from the Philippine Islands and/or Micronesia, because only a juvenile or a female occurred in all cases.

Key words: *Genicanthus bellus*, Pomacanthidae, first record, Japan

タテジマヤッコ属 *Genicanthus* Swainson, 1839 は、キンチャクダイ科 Pomacanthidae（スズキ目 Perciformes）の中では湾入形から三日月形の尾鰭を持つことや、色彩に明瞭な性的二型を現すことで特徴付けられる一群である（Randall, 1975）。インド・太平洋海域から 10 種が認められており（Randall, 1975; Pyle, 1997）、日本には以下の 5 種が分布する（島田, 2000; Shimada, 2002）：タテジマヤッコ *G. lamarck* (Lacepède, 1802)、ヤイトヤッコ *G. melanospilos* (Bleeker, 1857)、トサヤッコ *G. semifasciatus* (Kamohara, 1934)、ミズタマヤッコ *G. takeuchii* Pyle, 1997、ヒレナガヤッコ *G. watanabei* (Yasuda et Tominaga, 1970)。

2008 年 9 月 10 日、著者のひとり湯野川は、琉球列島伊江島の北西リーフの水深 50 m から、日本からは未知

のキンチャクダイ科魚類の 1 標本を得た。この標本を精査したところ、タテジマヤッコ属の *G. bellus* Randall, 1975 に同定された。この種は日本産同属魚類の 6 番目の種で、日本からは初記録となるのでここに報告する。

計数と計測方法は、Randall (1975) に説明のある形質はそれに、説明のないものについては Hubbs & Lagler (1964) に従った。ただし、垂直鰭の鰭条長についてはその基部を非破壊的に確認することが困難なため、鰭の基部付近の被鱗域に折り目として認識できる体の輪郭を鰭条の基部とみなして計測した。また、前鰓蓋骨棘長は、直線状の前鰓蓋骨後縁下端から棘の先端までを計測した。計測にはノギスを用いて 10 分の 1 mm の精度で、垂直鰭の鰭条、上神経棘、脊椎骨の計数は軟エックス線写真によって行った。色彩の表記は財団法人日本色彩研究所監修（1993）の系統色名に準拠した。標本は、デジタルカメラで色彩を記録後、10%ホルマリンで固定し、70%エタノール水溶液中に保存し、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類資料（KPM-NI）として登録した。また、鮮時のカラー写真は同博物館の魚類写真資料データベース（KPM-NR）に登録した。

¹⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan
senou@nh.kanagawa-museum.jp

²⁾ 伊江島ダイビングサービス
〒905-0502 沖縄県伊江村東江前 1944
Iejima Diving Service
1944 Higashiema, Ie, Okinawa 905-0502, Japan



Fig. 1. フカミヤッコ *Genicanthus bellus*, KPM-NI 22702, female when fresh, 73.0 mm SL, Ie-jima I., Ryukyu Is., 50 m depth. Photo (KPM-NR 59755A) by K. Yunokawa.

フカミヤッコ (新称)

Genicanthus bellus Randall, 1975

(Figs. 1 & 2, Table 1)

材 料

KPM-NI 22702、1 個体、73.0 mm SL、琉球列島伊江島、北西リーフ (北緯 26 度 43 分 52.92 秒; 東経 127 度 45 分 11.16 秒)、水深 50 m、2008 年 9 月 10 日、湯野川 恭採集。

画像資料

KPM-NR 16897、久米島、水深 70 m、1998 年 8 月 26 日、小川真司撮影; KPM-NR 35692 & 35693、久米島北東岸、水深 55 m、1999 年 10 月 28 日、小林 裕撮影; KPM-NR 41380、慶良間諸島安室島東沖の平瀬、水深 47.5 m、1999 年 10 月 29 日、森山 敦撮影; KPM-NR 85149 & 89042 (水槽内写真)、フィリピン産、田中宏幸撮影; KPM-NR 59755A (KPM-NI 22702 の鮮時のカラー写真; 2008 年 9 月 10 日) および 59755B (同個体の水中写真; 2008 年 5 月 24 日)、59755C (同個体の水中写真; 2008 年 7 月 10 日)、59755D-F (同個体の水中写真; 2008 年 8 月 2 日)、59755G (同個体の水中写真; 2008 年 4 月 30 日)、以上、A-F までは湯野川 恭、G は御宿昭彦撮影。

記 載

計数値と計測値は Table 1 に示した。

口は小さく端位。口裂はわずかに後下方へ斜行し、口角は上顎の中央よりやや後方に達する。主上顎骨後端は後鼻孔下に達する。両顎歯は著しく細長く、密生する。歯は 3 尖頭で、中央のものは側部のものに比較して著しく大きい。前鼻孔は短い管状で、後縁は細長く伸びて先

端の鈍い皮弁状になる。後鼻孔は裂孔状で、体軸に対して約 45 度後傾し、前縁から下縁にかけて低い皮弁で縁取られる。鰓孔は狭く、鰓膜は峡部後端に付着する。前鰓蓋骨の後縁は鋸歯状で、鋸歯数は 32。隅角部の 1 棘は強大で、先端は主鰓蓋骨後端下に達する。下縁には 4 棘を備え、2-4 番目の棘は同大で互いにやや離れているが、最前の棘は明らかに小さく、2 番目のものに近接する。間鰓蓋骨前下縁に 3 小棘を持つ。下鰓蓋骨下縁に棘はない。後側頭骨の露出部の遊離縁は鋸歯状で、鋸歯数は 12。上擬鎖骨の露出部の遊離縁上部は鋸歯状で、鋸歯数は 9。涙骨の遊離縁前部は波曲し、後部に放射状に並ぶ 4 小棘を備える。鰓耙は短く、扁平な三角形で、やや間隔を置いて並び、最長のものは最長の鰓弁の約 2 分の 1。頭部は口唇と峡部、前鰓蓋骨隅角の棘、鰓膜を除いて小櫛鱗に被われる。体は全体が櫛鱗に被われ、後側頭骨と上擬鎖骨の露出部上の鱗は小さく、不規則に配列する。体側鱗の大部分は側線上を除いてほぼ規則的に配列する。項部、側線域、喉部、胸部、腹部に二次小鱗が発達する。背鰭は第 1-5 棘間の鰭膜がよく欠刻し、第 8 軟条はわずかに糸状に伸長する。基底は全体に渡って 2-3 列の不規則に配列するやや小さな櫛鱗で被われる。棘条部では各棘と第 2 鰭膜の右側、第 3 鰭膜以降の両側が小櫛鱗で被われる。被鱗域は前部では基底側に限られ、後方ほど縁辺付近まで達している。軟条部は縁辺付近までほぼ全体が小櫛鱗で被われる。胸鰭は基部が小櫛鱗で密に被われる。外面は各鰭条に沿って鰭の基底側 3 分の 1 から 2 分の 1 ほどが微小な櫛鱗で被われる。腋部は無鱗。腹鰭は外面では各鰭条、内面では棘全体と第 1 軟条の一部が微小な櫛鱗で被われる。第 1 軟条は糸状に伸長する。



Fig. 2. フカミヤッコ *Genicanthus bellus*, KPM-NI 22702, female when living, Ie-jima I., Ryukyu Is., 50 m depth. Photo (KPM-NR 59755B) by K. Yunokawa.

臀鰭は第1-3棘間の鰭膜がよく欠刻し、第8-9軟条は糸状に伸長する。基底は全体に渡って2-3列の不規則に配列するやや小さな櫛鱗で被われる。棘条部は各棘と第1鰭膜の右側、第2鰭膜の両側が小櫛鱗で被われるが、鰭膜上の被鱗域は基底側前部に限られる。軟条部は縁辺を除いて全体が小櫛鱗で被われる。尾鰭は後縁が湾入し、上・下葉とも外側から2番目の分枝軟条が糸状に長く伸長する。鰭の中央後縁付近を除いて全体が小櫛鱗で被われる。

生鮮時の色彩 (Figs. 1 & 2): 鮮時、頭部の地色は淡い赤みのグレイ。上唇は前部が暗い灰みのブラウンで、左右1対の白色横線がハの字形を作る。上唇の左右はわずかに黄みを帯びる。後頭部から眼隔域にかけて青白い縁取りのある暗い灰みのブラウンの鞍状斑があり、その前縁は中央でV字形に欠刻する。この鞍状斑の下端は先細り、虹彩下部では強い黄みのオレンジとなってその下縁に達する。体の地色は喉部から胸部にかけては明るいブラウンみのグレイ、腹部は明るい青みのグレイ、残りの体側は青みの白。胸鰭基部から前上方へ向かって鰓蓋上部を通り、項部で後方へ向きを変え、背鰭基底に沿って背鰭軟条に達し、そこで鰭の色彩に同化する暗い灰みのブラウンの幅広い帯がある。この帯は全体として概ねC字形で、項部で左右のものが連なり、背鰭基底に沿って走る部分の背縁を除いて青白い縁取りがある。帯の後方腹側の縁取りは、軟条部の伸長鰭条の基部付近で上方へ屈曲し、伸長鰭条先端附近の直後に達する。また、帯の始部である胸鰭基部ではわずかに黄みを帯び、鰓膜上では赤みを帯びてやや淡い。側線始部附近から体側の後下方へ向かい、尾鰭基底下部に達し、そこで尾鰭下葉の縦帯に同化する暗い灰みのブラウンの斜走帯がある。この帯は前端から急に幅を広げ、体側中央で最も幅広くなる。また、帯の背側は青白く縁取られ、腹側は縁取りというよりはむしろ青白い地色となる。背鰭基底に沿って走る帯

の腹側の縁取りと側線始部附近から後方へ延びる帯の背側の縁取りの間は、前端が先細る幅の狭い灰みのブラウンの縦帯となり、その後端は尾鰭上葉の縦帯に同化する。側線始部から後下方へ広がり、臀鰭棘条部上方に達するさえた紫みの青色域がある。この青色域の後端と臀鰭基底の間の体側鱗は淡い灰みのブラウンで縁取られる。背鰭は鰭膜の地色が強い黄みのオレンジで、棘条部の被鱗域は概ねあさいブラウンだが、後方ほど黒ずみ、軟条部では伸長鰭条よりも後方を除いて全体が暗い灰みのブラウンとなる。第1-4棘の先端附近とそれらよりも後方の外縁は青白く縁取られ、その基底側に接して細い黒色縦線がある。胸鰭は灰みの白で透明。腹鰭は白く、第1-2軟条の一部が黒ずむ。臀鰭は棘条部の基底側3分の2がさえた黄色、軟条部の前部から伸長鰭条までの地色はさえたオレンジ。鰭の縁辺の色はスカイで、その基底側に伸長鰭条の先端まで延びる細い黒色縦線が接する。第3棘基部の直後から伸長鰭条の先端附近にかけて、やや幅の広い明るい青の縦帯がある。軟条部の伸長鰭条よりも後方は全体に淡い灰みのブラウンで、縁辺附近は灰みの白。尾鰭には上葉の上縁と下葉の下縁に沿って明瞭で幅の広い暗い灰みのブラウンの縦帯が伸長鰭条の先端まで延び、これら縦帯は青白く縁取られる。上・下葉の縦帯間の鰭条は淡い灰みのブラウンで、中央付近ではやや乱れた横列斑を作る。

生時 (Fig. 2)、上唇の1対の横帯、頭部や体、鰭の各帯の縁取りは青みが強い。上唇の横帯の上端上後方に横帯と同色の1小点が対をなす。胸鰭基部から前上方へ向かう帯は胸鰭基底上端と鰓膜上で途切れ、胸鰭基部では青地に黄色い斑となる。腹鰭は前部で青みが強い。

70%アルコールに保存した標本の色彩: 青、赤、黄系統の色は退色する。頭部や体の鞍状斑や帯は暗色となりよく残る。体側の青色域は暗色域としてよく残る。背鰭は全体的に黒ずみ、縁辺附近の黒色縦帯はよく残る。腹鰭の黒ずみはよく残る。臀鰭は棘条部の黄色域が白くなり、その他は全体的に淡い暗色となる。また、第3棘基部直後から延びる縦帯は暗色となり、縁辺附近の黒色縦帯とともによく残る。尾鰭の上・下葉の縦帯と、尾鰭中央の横列斑はよく残る。

分 布

日本では伊江島(標本に基づく)の他、久米島および慶良間諸島安室島で撮影記録がある(本研究の画像資料に基づく)。海外ではインド洋東部から中・西部太平洋の熱帯海域に分布し(Allen, 1980; Allen *et al.*, 1998; Pyle, 2001; Debelius *et al.*, 2003; Randall, 2005)、ココス・キーリング諸島(Randall, 1975; Böhlke, 1984)、東インド洋のクリスマス島(Hobbs *et al.*, 2007)、バリ(Kuiter & Tono-zuka, 2001; Allen & Adrim, 2003)、フィリピン(画像資料に基づく)、パラオ(Myers, 1999)、マリアナ諸島(Myers, 1999; Pyle, 2001; Myers & Donaldson, 2003)、マーシャル諸島(Myers, 1999)、トンガ(Randall *et al.*, 2003)、クック諸島ラロトンガ(Myers, 1999)、ソサイエティー諸島タヒチ(Randall, 1975: タイプ産地)から記録されている。

生息状況

本報告の標本は、2008年4月30日、伊江島の北西にある水深45 mまで落ち込むドロップオフの近辺で、棚状になった水深50 mの地点の死んだサンゴ群体の周辺で御宿昭彦氏により最初に確認、撮影され

(KPM-NR 59755G)、その後採集されるまで同所に定着していた。伊江島に出現したのはこの1個体のみで、周囲には同属のヒレナガヤッコ *Genicanthus watanabei* が多数生息していたが、本個体は常に単独で行動し、ヒレナガヤッコのハレムに混ざることにはなかった。日

Table 1. Measurements expressed as thousandths of the standard length and counts in *Genicanthus bellus*

	Present study	Randall (1975)	
	KPM-NI 22702	2 specimen	1 specimen
	Ie-jima I., Ryukyu Is. female	Tahiti male & female	Cocos-Keeling Is. male
Standard length (mm)	73.0	95.7 & 105.7	101.8
Total length (mm)	115.4	–	–
Morphometrics			
Greatest depth of body	485	463–472	442
Width of body behind gill opening	168	151–154	165
Head length	293	277	267
Snout length	97	80–86	79
Diameter of eye	101	87–89	85
Interorbital width	79	82–88	82
Length of preopercular spine	95	117–130	128
Least depth of caudal peduncle	132	131	130
Length of caudal peduncle	130	114–131	134
Snout to origin of dorsal fin	363	337–342	324
Snout to origin of pelvic fins	375	350–360	337
Snout to origin of anal fin	653	610–615	590
Length of caudal fin	570	450–748	472
Caudal concavity	337	235–521	252
Length of pectoral fin	267	236–254	233
Length of pelvic fin	315	279–289	275
Length of pelvic fin spine	197	173–188	174
Length of dorsal fin base	699	705–730	686
Length of first dorsal fin spine	82	75–76	85
Length of second dorsal fin spine	133	109–123	127
Length of third dorsal fin spine	151	144–153	147
Length of last dorsal fin spine	184	181–182	173
Length of longest dorsal fin soft ray	284 (8th)	207–234 (9th)	234 (9th)
Length of anal fin base	345	337–343	334
Length of first anal fin spine	96	95–97	96
Length of second anal fin spine	142	147–151	154
Length of third anal fin spine	200	205–213	201
Length of longest anal fin soft ray	349 (8th)	324–357	250
Meristics			
Dorsal fin rays	XV, 15	XV, 16	XV, 15
Anal fin rays	III, 16	III, 16–17	
Pectoral fin rays	17	17	16
Pelvic fin rays	I, 5	I, 5 (as a generic character)	
Branched caudal fin rays (upper+lower)	8+7=15	15	
Pored lateral-line scales	about 42	42–44	
Lateral scale rows	about 47	46–48	
Transverse scale rows (upper/below)	about 9/25	about 10/about 24	
Circumpeduncular scales	24	about 27	
Gill rakers	4+12=16	4–5+12–13=16–17	
Supraneural bones	1	1 (as a generic character)	
Vertebrae (abdominal+caudal)	10+14	10+14 (counted in holotype)	

本では他に久米島と安室島で撮影記録があるが、いずれも雌または稚魚が単独で出現したのみで、雄やハレムは未確認である。日本における本種の出現水深帯は、47.5-70 m であった。

備 考

伊江島産の標本は、Randall (1975) による *Genicanthus bellus* の原記載と比較した結果、横列鱗数や尾柄周囲鱗数を除く計数的形質、そして図示されたタヒチ産の雌の色彩によく一致した一方、多くの計測的形質に不一致が見られた (Table 1)。不一致の多くはその値が大きい方へずれており、体長が相対的に短いことを示唆している。タテジマヤッコ属の稚魚は一見して成魚よりも体高が高く、相対的に体長が短いことは、Randall (1975) や Debelius *et al.* (2003) に図示された各種の稚魚の写真から容易に推定できる。また、久米島で撮影された *G. bellus* の稚魚の画像 (KPM-NR 16897) から、この種においても同様であることがわかる。従って、計測的形質における原記載との不一致は成長差によるもので、伊江島産の標本がタイプ標本よりも小さいことに起因すると考えられ (伊江島産の標本が体長 73.0 mm であるのに対してタイプ標本は 95.7-105.7 mm)、伊江島産の標本を *G. bellus* に同定した。

Randall (1975) は、インド洋のココス・キーリング諸島産の2個体の背鰭軟条数と胸鰭鰭条数がそれぞれ15本と16本であるのに対して、中央太平洋のタヒチ産の2個体のそれらは16本と17本であること、雄の色彩にも両地域間で差異があることを指摘したが、これらの差異が地理的変異によるものか、個体変異の範囲なのかは不確かであると述べている。伊江島産の標本は雌のため、色彩については比較できないが、背鰭軟条数は15本でココス・キーリング諸島産のそれに、胸鰭鰭条数は17でタヒチ産のそれに一致した。従って、原記載で指摘された鰭条数の差異は、地理的変異によるものではないと言える。

伊江島における出現は、日本からの初記録になると同時に、本種の北限記録となる。ただし、久米島や安室島における写真記録も含めていずれも稚魚や雌が単独で出現しただけである。本種は観賞魚としてフィリピンから頻繁に輸入されていること、第2著者は1998年1月、フィリピンのセブ島やマクタン島の水深50m前後において、多数の本種を確認していることから、琉球列島に地理的に近く、黒潮の源流にあたる同地にまとまった個体群があることは間違いない。また、ミクロネシアにおいても比較的多くの記録があることを考慮すると、琉球列島における出現は、フィリピンあるいはミクロネシアの個体群からの偶発的な無効分散によるものと思われる。出現地点がいずれも黒潮流路に近い沖縄島の西側に位置する島嶼であることや、久米島や安室島での出現が1998年から1999年にかけてだけに集中したこともこの推測を補強するものである。なぜなら、琉球列島以南における黒潮の流軸位置は安定しているため、繁殖地において卵稚仔が黒潮に取り込まれ、沖縄島西方の島嶼に加入するためには、産卵場所における黒潮へ向かう沿岸流

の発生、黒潮流軸の島嶼方向へのぶれ、あるいは黒潮から離脱するための分枝流や沿岸流の発生など、相当な偶然が重なり合う必要があると考えられるからである。事実、今回の伊江島における本種の出現は、沖縄島西方海域においては約10年ぶりのことであった。

本種には標準和名が与えられていないため、生息水深が同属他種に比べて深いことにちなみ、新標準和名「フカミヤッコ」を提唱する。

謝 辞

本種の分布について有益な情報を与えられた小川真司 (沖縄県久米島町) ならびに小林 裕 (東京都品川区)、森山 敦 (沖縄県座間味村)、御宿昭彦 (静岡県三島市) の諸氏、また、観賞魚としての本種の輸入状況についてご教示いただいた田中宏幸氏 (宮崎県宮崎市) に対して謹んで感謝の意を表する。なお、本研究の一部は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A (課題番号 19208019) によって行われた。

引用文献

- Allen, G. R., 1980. Butterfly and angelfishes of the world. Vol. 2. 149-352pp. A Wiley-Interscience Publication, New York.
- Allen, G. R. & M. Adrim, 2003. Coral reef fishes of Indonesia. *Zoological Studies*, **42**(1): 1-72.
- Allen, G. R., R. Steene & M. Allen, 1998. A guide to angelfishes and butterflyfishes. 250pp. Odyssey Publishing, USA
- Böhlke, E. B., 1984. Catalog of type specimens in the ichthyological collection of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia. *Academy of Natural Science of Philadelphia, Special Publication*, (14): i-viii+1-246.
- Debelius, H., H. Tanaka & R. H. Kuiter, 2003. The marine fish families series: Angelfishes: A comprehensive guide to Pomacanthidae. 208pp. TMC Publishing, Chorleywood, UK.
- Hobbs, J.-P. A., A. J. Frisch, J. Hender & J. J. Gilligan, 2007. New records of angelfishes (Pomacanthidae) and butterflyfishes (Chaetodontidae) from Christmas and Cocos (Keeling) Islands, Indian Ocean. *Journal of the Royal Society of Western Australia*, **90**(2): 107-109.
- Hubbs, C. L. & K. F. Lagler, 1964. Fishes of the Great Lakes region. xv+213pp., 44col. pls. Univ. Michigan Press, Ann Arbor.
- Kuiter, R. H. & M. Tono-zuka, 2001. Pictorial guide to: Indonesian reef fishes, Part 2. v+304-622pp. Zoonetics, Melbourne, Australia.
- Myers, R. F., 1999. Micronesian reef fishes: A comprehensive guide to the coral reef fishes of Micronesia. 3rd revised and expanded edition. vi+330pp., 192pls. Coral Graphics, Guam.
- Myers, R. F. & T. J. Donaldson, 2003. The fishes of the Mariana Islands. *Micronesica*, **35/36**: 594-648.
- Pyle, R., 2001. Family Pomacanthidae. In Carpenter, K. E. & V. H. Niem (eds.), FAO species identification guide for fishery purposes: The living marine resources of the western Central Pacific, Vol. 5, Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae), pp.3266-3286. FAO, Rome.
- Pyle, R. L., 1997. A new angelfish of the genus *Genicanthus* (Perciformes: Pomacanthidae) from the Ogasawara Islands and Minami Tori Shima (Marcus Island). *Revue française d'Aquariologie Herpetologie*, **24**(3/4): 87-92.
- Randall, J. E., 1975. A revision of the Indo-Pacific angelfish genus *Genicanthus*, with descriptions of three new species. *Bulletin of*

- Marine Science*, **25**(3): 393-421.
- Randall, J. E., 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific: New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. xii+707pp. University of Hawai'i Press, Honolulu.
- Randall, J. E., J. T. Williams, D. G. Smith, M. Kulbicki, G. M. Tham, P. Labrosse, M. Kronen, E. Clua & B. S. Mann, 2003. Checklist of the shore and epipelagic fishes of Tonga. *Atoll Research Bulletin*, (502): 1-35 with a map.
- 島田和彦, 2000. キンチャクダイ科. 中坊徹次編, 日本産魚類検索: 全種の同定, pp.898-907, 1573-1575. 東海大学出版会, 東京.
- Shimada, K., 2002. Pomacanthidae. In Nakabo, T. (ed.), *Fishes of Japan with pictorial keys to the species*, English edition, pp.898-907, 1564-1566. Tokai University Press, Tokyo.
- 財団法人日本色彩研究所監修, 1993. 改訂版色名小事典. 134pp. 日本色研事業株式会社, 東京.

摘 要

瀬能 宏・湯野川 恭, 2009. 伊江島で採集された日本初記録のフカミヤッコ (新称) (スズキ目キンチャクダイ科). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (38): 113-118. (Senou, H. & K. Yunokawa, 2009. First record of a pomacanthid fish, *Genicanthus bellus* Randall, 1975 from Japan. *Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Hist.)*, (38): 113-118.)

スズキ目キンチャクダイ科のフカミハナダイ (新称) *Genicanthus bellus* Randall, 1975 の雌 1 標本 (標準体長 73.0 mm) が、琉球列島伊江島の水深 50 m から採集された。この標本を原記載と照合したところ、雌雄差を考慮したとしても多くの計測的形質で一致しなかった。この不一致は、タイプ標本のサイズ (標準体長 95.7-105.7 mm) が本研究の標本よりも大きいことから、成長の差に起因すると考えられた。また、原記載で示された東インド洋のココス・キーリング諸島産と中央太平洋のタヒチ産の標本間の鰭条数の差異 (前者の背鰭軟条数と胸鰭鰭条数はそれぞれ 15 と 16、後者では 16 と 17) は、本標本の計数値 (それぞれ 15 と 17) により地理的変異ではないことが判明した。伊江島における本種の出現は、日本からの初記録になると同時に本種の北限記録である。この他に、久米島や安室島から水中写真で記録されているが、伊江島も含めて出現記録のいずれもが稚魚もしくは雌単独によるものであり、琉球列島における本種の分布はフィリピンあるいはミクロネシアからの偶発的な無効分散と推測された。

(受付 2008 年 11 月 23 日 ; 受理 2009 年 1 月 22 日)